

来年に向けた茶園管理

本県では、今年の一歩茶で、放射性セシウムが暫定規制値を超える茶園があり、国から出荷制限を指示されました。放射性セシウムは、古葉の中に多く含まれていますので、「深刈り」や「中切り」により減らす管理を行いましょう。

1. 「深刈り」や「中切り」の注意点

- (1) 「深刈り」は1番茶摘採面から10～20cmにある葉層を刈り取る。
- (2) 「中切り」は地面から30～40cmまで剪定する。
- (3) 作業は、秋までの樹勢回復のため、できるだけ早く行う。

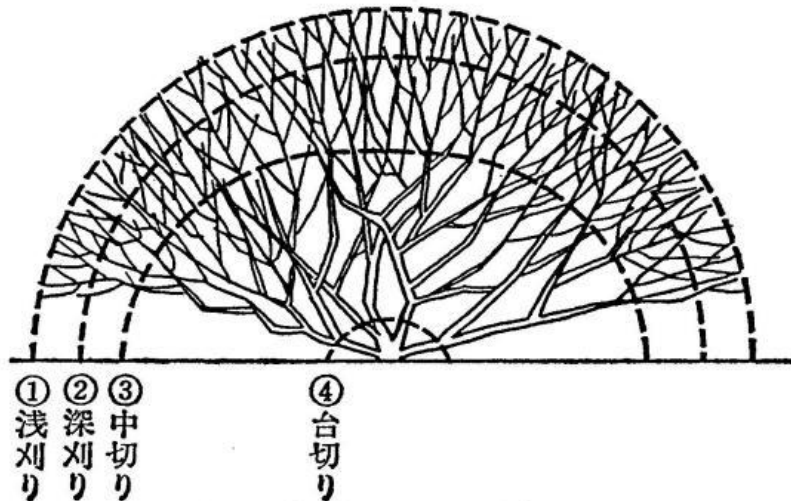


図 剪枝による更新

※剪定枝は、農林水産省より「従来と同様に、農地に埋却して構わない」との見解が示されています。

2. 今後の施肥管理など

施肥、防除などについても茶園を良好に維持するため、通常の実理を行う。

- (1) 秋肥は、摘採や整枝により消耗した樹勢を回復させ、翌年の1番茶生産のための枝条の充実と養分の蓄積をねらいとして施す。
- (2) 施用は8月下旬までに行う。

時期別施肥量（成木園 10a あたり）

単位：k g

	窒素	リン酸	カリ
秋肥（8月下旬）	15	12～18	12～18
春肥（3月中下旬）	15	12～18	12～18
芽出し肥（4月上中旬）	8	—	—